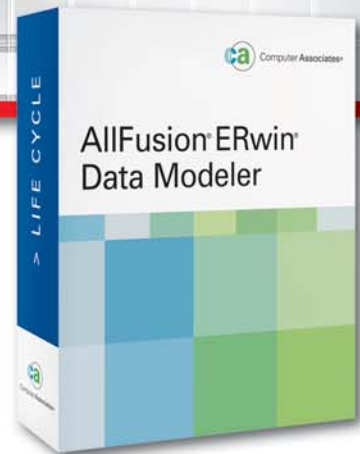


AllFusion[®] ERwin[®] Data Modeler



ユーザー事例



富士フイルムコンピューターシステム株式会社



富士フイルムコンピューターシステム株式会社
情報活用推進部 課長 新宮 寿仁 氏

グループのビジネス戦略を支える新DWHを 「AllFusion ERwin Data Modeler」で構築

富士フイルムグループの IT 企業である富士フイルムコンピューターシステム株式会社(以下、富士フイルムコンピューターシステム)では、高度な事業分析を可能にする新たな DWH を構築した。グループ企業や事業部門にまたがる分析が可能な情報環境を構築することで、より戦略的なビジネスを推進するのが狙いである。この DWH 構築を支えるツールとして選ばれたのが、日揮情報ソフトウェアが提供するデータモデリングツール「AllFusion ERwin Data Modeler」(以下、ERwin)だ。同社では ERwin を活用することにより、開発生産性の大幅な向上を実現。また次世代に向けたデータ基盤整備にも役立っている。

富士フイルムグループのIT戦略を確実にバックアップ

日本を代表するフィルム・イメージング機器メーカーとして、一般にも広く知られる富士フイルム。その IT 戦略を支えているのが、同社のグループ企業である富士フイルムコンピューターシステムである。富士フイルムの IT 部門を母体として設立された同社では、持ち前の高い技術力を活かし、多彩な業務ソリューションをグループ企業に提供している。

「私が所属する部門では、主に情報活用のためのインフラを担当しています」と語るのは、富士フイルムコンピューターシステム 情報活用推進部 課長 新宮 寿仁 氏。グループウェアなどの日常的な情報共有基盤から、事業戦略策定に不可欠な大規模 DWH に至るまで、情報活用に関わる仕組みを幅広く構築していると続ける。

「情報系のシステムは、現場に活用してもらって初めて成功と言えます。システムに蓄積されたデータを価値ある情報として提供できるよう、積極的に仕組み作りに取り組んでいきたい」(新宮氏)

「VISION75」を支える情報基盤の構築に着手

2008 年に創立 75 周年を迎える富士フイルムグループでは、現在「VISION75」と呼ばれる中期経営計画を遂行中だ。「新たな成長戦略の構築」「経営全般にわたる徹底的な構造改革」「連結経営の強化」をコンセプトに、さらなる飛躍を目指すのが狙いである。

その一貫として取り組んだのが、全グループにわたる事業分析を可能にする新 DWH の構築だ。新宮氏はこの点について「従来の DWH は現場業務の情報分析を目的としていたため、グループ企業間や事業部門間にまたがる分析が難しいという問題がありました。そこで全グループ企業の情報を、一元的に管理・分析できるようなデータ基盤を新たに作りたいと考えたのです」と説明する。連結経営の強化がテーマとして挙げられているように、VISION75 ではグループ事業の全体最適化が大きな課題となっている。しかし既存の DWH 環境では、こうした要求に応えていくことが困難だったのだ。

新 DWH を支える製品には、日本 NCR の「Teradata」を選択。さらにポイントとなったのが、日揮情報ソフトウェアが提供するコンピュータ・アソシエイツのデータモデリングツール「ERwin」の採用である。

開発生産性向上を目指して「ERwin」と「Model Manager」を導入

ERwinを導入した背景を、新宮氏は「DWH構築にはデータ分析や論理設計などの作業が欠かせませんが、今回はグループ企業全社をカバーするデータ基盤のため、かなりの規模になることが予想されました。そこでツールの導入によって、作業を効率化したいと考えたのがきっかけです」と説明する。

同社では2004年初頭から、開発に利用するツールの選定作業に着手。ところが思いがけない事態が起きた。同社のニーズに合うようなツールが、なかなか見つからないのである。「データのモデルだけを描くようなツールは確かにあります。しかし我々が欲しかったのは、モデルを修正したら定義まで直ってくれるような連携機能を備えたツール。これが意外と見つからなかったのです」と新宮氏は振り返る。

そんな時に出会ったのがERwinであった。ERwinはデータベース生成機能やモデルとデータベースの同期機能、データウェアハウス／データマート設計機能など、強力な機能群を数多く搭載している。まさに同社の要件にピッタリの製品であった。

「またもう一つ決め手となったのが、『AllFusion Model Manager』の存在です。実際の作業は一人で行うわけではありませんから、チーム開発を支援してくれる機能も欲しかった。その点 Model Manager のモデル共有機能を利用すれば、複数のメンバーで効率よくモデルを作っていくことができます。これらの点を高く評価し、導入を決めました」と新宮氏は説明する。

わずか半年で第一弾をリリース～システム品質向上にも貢献

同社では2004年9月よりERwinによる開発環境を導入。その半年後の2005年3月には、早くも連結会計の情報を提供するシステムを稼働させた。新宮氏はこれほどの短期構築を可能にした理由として、まずデータの定義や体系を従来とは全面的に見直した点を挙げる。

「以前は各部門内で情報を活用できれば良かったので、ルールが曖昧な点多かった。しかしそれでは全グループレベルでの情報活用は行えません。既存の仕組みを一応は踏襲しつつも、変えるべきところは大胆に変えていきました」(新宮氏)

たとえば、以前は項目の最初にエンティティ名を付けることで、項目名がユニークになるようにしていた。しかし現在では、一つ一つの項目自体でユニークになるように改めている。「ツール導入までの期間中に、こうした新しい決め事をしっかり決めておいたことが成功につながったと思います」と新宮氏は続ける。

もちろんツールによる効果も大きい。新宮氏は「ERwinとModel Managerが導入されたことで、開発生産性が大幅に向上しました。たとえば何らかの修正を行う場合も、一度の作業でモデルも定義体も両方修正されます。ERwinとModel Managerがなければ、これほど短期間での構築は不可能だったでしょう。また手作業にありがちなチェック漏れなどの心配もありませんので、システム品質向上にも役立っています。」と満足げに語る。

2005年11月には、第二弾となるSCM向けの情報提供も開始。今後も順次他の業務への横展開が行われていく予定だ。新宮氏は「ERwinはグループの情報基盤を支える根幹製品となりますので、今後の進化にも大いに期待しています。できればもっと多くのユーザーでERwinを使いたいの、価格がもう少し下がるとありがたいですね」とこやかに語った。

<企業概要>



社名：富士フイルムコンピューターシステム株式会社
 本社：東京都港区南青山7-8-1 小田急南青山ビル2階
 設立：1998年7月1日
 資本金：4億9千万円
 従業員数：約110名(2004年12月01日現在)
 URL：<http://ffcs.fujifilm.co.jp/>
 事業内容：富士フイルムのIT部門を母体として1998年に設立。
 グループ企業全体のIT戦略策定と、情報システムの構築・運用を手がける。